

2017年3月21日

2017年度第3回Jリーグ理事会定時会見発言録

[司会より]

《決議事項》

1.2017JリーグYBCルヴァンカップ開催日・会場・TV放送決定

開催日と会場が未定であった決勝について、11月4日(土)埼玉スタジアム2002で開催、TV放送はフジテレビ全国生中継で決定した。

2.シャペコエンセに対する義援金拠出の件

募金活動の合計金額23万8778円に加えて、クラブに対する義援金をJリーグから100万円を拠出することが決定した。3月29日から4月3日に、村井チェアマンがシャペコエンセに赴き、義援金、映像、Jリーグアウォーズでファン・サポーターからいただいたメッセージを送る。

3.ホームタウン追加の件(レノファ山口)

7市をホームタウンとしていたが、6市6町を追加することを承認。これによる県内の自治体すべてがホームタウンとなった。

《報告事項》

1.各種検討部会・分科会発足の件

実行委員会の諮問機関として4つの検討部会の発足を理事会で承認した。

「フットボール検討部会」「事業・マーケティング検討部会」「社会連携検討部会」「経営検討部会」

Jリーグの常勤役員4名が各部会長を担当し、各会の下に分科会を設け様々な議論を展開する。

2.2017年ホームタウン活動助成の件

地域振興活動および介護予防事業51件3600万円弱、東日本大震災および熊本地震復興支援活動13件838万円の助成を行う。

3.後援名義申請の件

①2017東京国際ユース(U-14)サッカー大会

後援及び特別協賛をする。5月1日～7日に駒沢にて実施する大会に後援することを決定

②明治安田生命フットサルフェスタ2017supported by adidas

6月から10月にかけて実施する当大会に後援することを決定。

[村井チェアマンからコメント]

明治安田生命J1・J2リーグは4節まで終了。最初のうち、試合の配信中継でトラブルがあったことについて、既にメディアの皆様には事実関係や経緯を説明したが、改めて理事会のメンバーに原因や背景を説明した。J1、J2の入場者数のトレンドは昨年を越えるいいスタートが切れた。観戦者調査の報告をしたが、理事会でも共有し、今後Jリーグとしてどういった手を打っていくべきか共有をした。

各種検討部会の発足に関しては共有を丁寧に行った。今年はルヴァンカップが25回目で、来年の

リーグ戦が25周年を迎える。この1年をかけ、重要なテーマは役員自らがオーナーとなって議論を深め、次の25年、30年位をターゲットとするか、今後のJリーグのビジョンを役員が主体となって議論していく。

「フットボール検討部会」

フットボールが世界で通用するレベルになるために、何をしなければいけないのかを原副理事を中心に議論していく。JFAとの中でシーズンの議論が本格化する。シーズン制のあるべき論も「フットボール検討部会」が中心となって議論する。カレンダー以外でも、ポストユース、U-23の扱いをどうしていくのか。J3の場で育成をしているが、もっと強化をしていくにはどうすべきか、大会方式の議論、J3の参加を何チームまでとするのか、昇降格をどう考えるのかなど、大きなテーマをフットボール検討部会で行う。資料にある「女子分科会」や「J3分科会」は既に走り出しているため、クラブから参加希望者を集い積極的にご参加いただける方を中心としたメンバーにしている。

「事業・マーケティング検討部会」

中西常務理事が責任を持つが、toBとtoCの両面を議論すべく二つの分科会を設ける。

個人のお客様に関しては、デジタルを使ったチケットセールス、DAZNなどの動画配信と関心度アップをどのようにつなげていくのか、toCの中心の考え方になる。toBはパートナー企業とどのように社会に貢献していくかを考えていく。また次の海外の放映権契約の更新が控えているので国際放映権に対してJリーグはどのように向かうのか、このあたりがテーマとなる。

4月1日付でJリーグは組織改編を行う。株式会社Jリーグホールディングスの下に複数の子会社が並ぶことになるが、そこではマーチャндаイジングを中心とするグッズの販売についても機構改革をした。グッズ販売をどのように成長させていくのか、そのあたりも検討テーマとなる。

「社会連携検討部会」

私が担当する。すでにJリーグは38都道府県、54クラブまでに裾野を広げているが、ホームタウン活動や社会貢献活動は、基本的にクラブが主体となって行っている。どういう活動をしているのかを調査・集計することを中心にJリーグがやってきているが、そろそろクラブの取り組みの中で、良い活動は横に展開し、本格的にナレッジを共有しながら54クラブのネットワークを使いながらできることがあるのではないかを模索したい。川崎Fの算数ドリル、鹿島のスタジアム内の病院、さまざまなスタジアムを核にまちづくりをしているクラブが既にあり、インバウンドやスポーツツーリズムを水戸や札幌なども行っている。こうしたJクラブが地域と向き合い取り組んでいる健康問題、教育問題、産業振興、スポーツツーリズム、まちづくり、国際交流といった、どこの行政も抱えている共通課題を、積み上げだけではなく、より生産性が高く、より効率的に横に展開していくことを考えている。

『経営検討部会』

現在IT投資に関してはJリーグの共通基盤整備を進めているが、同じ考え方で、経理、人事、リーガ

ルサポートなどの各クラブ共通のバックオフィスや管理部門の代行サービスを本格化する。また、財務基準、スタジアム基準なども、次の25年を考えた時のJリーグのレギュレーションをもう一度、0からフラットに総点検していこうという分科会もスタートした。

上記に挙げた部会について、経過報告は共有していき、将来のJリーグのデザインをまとめることで、来年度以降にも発展していければと考えている。

V・ファーレン長崎についての意見交換もした。クラブの再建に名乗りをあげていただいているジャパネットたかた様からクラブの株主を100%取得したいという申し出が(クラブに)あった。本来株式の移動に関しては、クラブの取締役会で譲渡承認をするが、先立ってJリーグ理事会が株式の移動に関して譲渡承認を行うことが定められている。今回ジャパネットたかた様以外にも長崎には62社の株主があり、個々の株主とジャパネット様で譲渡交渉が始まるが、包括的に売り主が了解するのであれば株式譲渡に関しては承認すると理事会で決めている。

シャペコエンセの件

海外で発生した天変地異や災害への支援は国際関係をしているJFAが中心となって義援金などを送り、国内、主にJクラブのホームタウンが被災した場合はJリーグが義援金を拠出することを慣例としてきたが、数多くのクラブでJリーグのために活躍した選手・監督が犠牲になった飛行機事故であり、例外的ではあるがシャペコエンセに義援金の拠出を決定した。当該募金活動の中間報告も行い、シャペコエンセとスルガ銀行チャンピオンシップで対戦する浦和からも、継続して募金活動を行うことを続けていくという話があった。今後に向けた調整もあり、3月末に私が訪問する。現地ではジーコ氏が帯同し引率、協力いただくことになった。

<質疑応答>

Q:V・ファーレン長崎について、先ほどの話では、株式譲渡の提案があったら承認するかどうかの手続きがあり、仮にジャパネットたかた様であった場合に了承するという内定の話なのか。

A:村井チェアマン

厳密に言うと、株式譲渡には売主と買主の双方の合意があり、リーグに申請があり個別に判断し、リーグとして承認できれば各社の役員に譲渡手続きを承認する、という流れである。今回はジャパネット様は株式を引きうける相手先が62社と非常に多いため、1件1件個別に承認していくのではなく、売主から売却の申し出があった場合はJリーグは了承する、ということを確認した。

決議は売主と買主がセットになって初めてできる。過去の事例では株式譲渡については個別名称含めて公表していないが、実質的に株式譲渡を決議している。

A:村山広報部長

各クラブ5%を超える株式譲渡については理事会の決議事項として定めているが、理事会後の記者会見では通例では発表しない案件である。

A:村井チェアマン

今回はクラブ側が株主に向けて既に説明会などを開きクラブもそれを認める形で申請してきた。報道済みの内容でもあるため報告した次第。

Q:一連の問題で混乱していたが、今回方向性が見えたことをチェアマンはどのように受け止めているか。

A:村井チェアマン

地域に根差し、地域に支持されるクラブであってほしい。経済界、行政、県サッカー協会などクラブを取り巻く地域の方々の総意が無ければクラブは成長できない。今回はそうした皆様の合意があると聞いている。クラブの再生にむけて条件が整ったと認識している。

Q:内部監査が入っていたが、現状の見通しは。

A:村井チェアマン

コンプライアンスに関わる案件は第三者に調査を委ねている。まだ報告が来ていない。

Q:検討部会と分科会について、外部有識者のメンバーは決まっているのか、定例なのか、メディアに公開していただけるのか。

A:村井チェアマン

メンバーについては、現在クラブの実行委員やクラブから推薦された関係者は一部内定している。このあと外部有識者は個別に部会長が推薦していく。社外理事に対しては有識者と認識しているので是非参加していただきたいと話した。社外理事以外の方で招聘するケースもあるかもしれない。早急にメンバー確定を済ませたい。会議のタイミングは定時としては決めておらず、部会長が決定する。私のところはメンバーにビデオ会議の案内を行うつもりでいる。アイデアが閃いたら即刻招集をかけて断続的に開催する。開催のインターバルは部会長に委ねる。メディアの皆さまへの公開もいいかもしれない。こちらも部会長に委ねる。私の受け持つ社会連携検討部会はむしろ公開した方が色々なアイデアが集まってきそうなので、公開したいと考えている。

Q:V・ファーレン長崎について、そもそもクラブが経営難に陥ってしまったことについてどう思われているか。

A:村井チェアマン

私が直接現地入りしたわけではなく、間接的な伝聞が多いので何とも申し上げにくい。少なくとも選手や監督、コーチなど現場スタッフが起こした問題ではなく、あくまで経営陣に責がある可能性が

大きい。誰が、という点は非常に難しく、前実行委員や現執行部も反省すべき点があるかもしれない。いずれにしてもクラブの経営難という点に関しては、例えば熊本地震といった自然災害は不可抗力的な要素が大きい。今回の問題においては経営者の責によるところも多いのではと推測する。Jリーグでは経営人材育成を進めており、何名かクラブに派遣しているが、反省を次に生かしていくような経営者が育っていくことが大事だと改めて認識した。

Q: 清水エスパルスの角田選手の挑発行為について、クラブが公式HPで発表しているが、リーグとして今後どのような手続きをとるのか。

A: 村井チェアマン

ピッチ上で発生した事案については規律委員会マターとなり、今回の件も規律委員会が本件の事実関係を調査し動いている。プロセスの只中にあるため現時点で私から申し上げることはない。過去のケースでは、同様の挑発行為が2度ほどあったと認識している。2014年に相手選手への挑発が1回、相手サポーターを挑発する行為が1回。いずれにしても、規律案件となるかは規律委員会が調査を経て決定する。

了